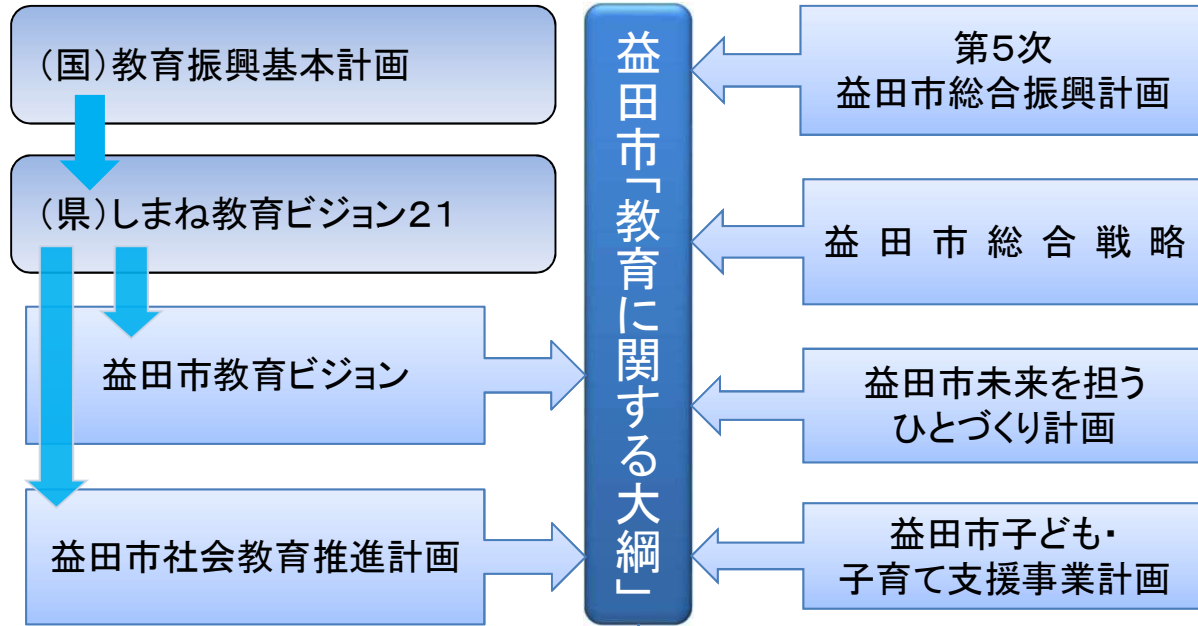


益田市「教育に関する大綱」は、国の「教育振興基本計画」や県の「しまね教育ビジョン21」を基に、益田市の教育全般の方向性を定めた「益田市教育ビジョン」「益田市社会教育推進計画」の中での取り組みから、「第5次益田市総合振興計画」「益田市総合戦略」「益田市未来を担うひとづくり計画」「益田市子ども・子育て支援事業計画」などに掲げた施策等と連携・協働して、今後、益田市が早期かつ重点的に推進すべきものを指し示すものです。



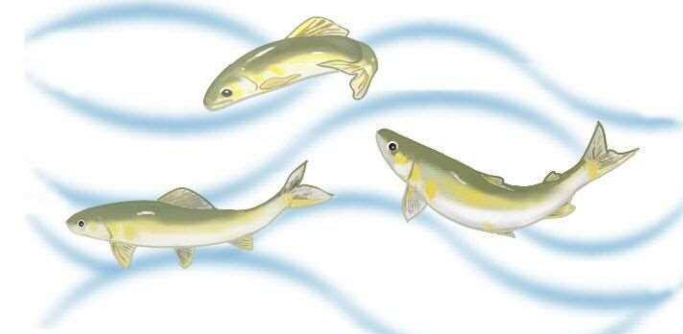
| 重点項目 | 方針 |
|-------------------------|---|
| 教育と子育て支援の一体化 | 就学前と就学後、学校での学習時間と放課後、夏休みなどの長期休業中と通常の学期中など、子ども達を支える担い手と公的部門が現状では分化しています。それらの一本化を図り、同じ目的意識のもとで、学校施設を有効に活用し子ども達を育む機能を高めます。 |
| 学力育成を支えるための施策の推進 | ICTや学校図書館を活用した教育等により、読解力や学び方、情報活用能力等を身に付けるとともに、「分かる授業」や「家庭学習の充実」等の取り組みにより、学習習慣の醸成や学びに向かう力を育成し、子ども達が将来への視野を広げ、自らの可能性を広げることのできる教育を推進します。また、子ども達が安全に安心して学ぶための教育環境を整備します。 |
| ふるさと教育の推進 | ふるさと益田に深い愛着を持ち、このまちで培った才能を内外で発揮できる子ども達を育てるとともに、特に、益田で活躍したいと強く意識できるよう子ども達の成長を支えます。また、身近に豊かな文化芸術にふれることで、より郷土愛と人間性を育む機会を充実させます。 |
| ライフキャリア教育・起業家教育による人材の育成 | 職業に関する教育や職場体験により、地元の企業や地元で活躍している経営者や事業家に接することや、益田でいきいきとくらすロールモデルと対話することを通じて、「この地で活躍する自分の将来像」を思い描けるように、将来の益田を担うことのできる人材育成を推進します。 |

平成27年6月1日策定(平成29年7月1日改訂)

～益田で学び育つ子ども達が、ふるさと益田で活躍できる未来のために～

益田市「教育に関する大綱」

「ひとが育つまち益田」の実現を目指し、次世代を担う子ども達が安全で安心して学習できる教育環境の整備と、益田で培った才能を益田で発揮できる環境の整備に向け、市長と教育委員会が連携し、早期かつ重点的に取り組む施策の指針として、益田市「教育に関する大綱」を策定しました。

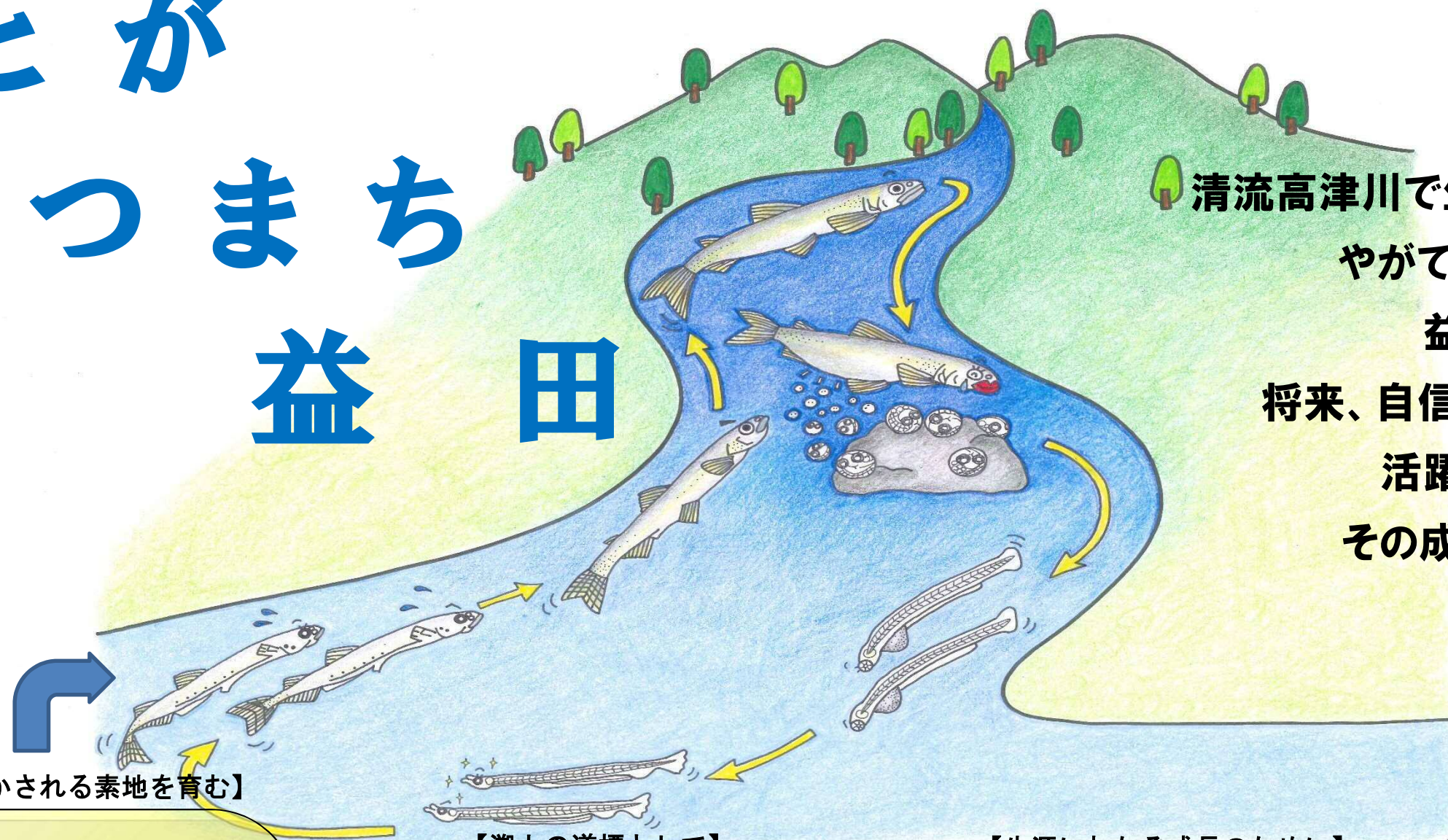


益田市の魚「アユ」

益 田 市

益田市「教育に関する大綱」

ひとが育つまち益田



【成魚期に活かされる素地を育む】

ライフキャリア教育・起業家教育による人材の育成

遡上した後のアユの成長には、清流が育んだ豊富なコケ（資源）が必要です。子ども達にも、ふるさとに戻った後に、その力を発揮できる“素地”が欠かせません。子どもの頃から、地元企業との結びつきを持つことで、地元企業の魅力や地域で活躍する人の存在を知り、将来、ふるさとで活躍する自分の姿を想像し、夢を実現できるよう支援します。

【遡上の道標として】

ふるさと教育の推進

海に出たアユの稚魚は、川を目指して遡上します。多くのアユが、生まれ育った川を目指して遡上するように、子ども達も、「ふるさとで活躍する」という選択肢を持ち、選ぶことができるよう、ふるさとの魅力を知ることや益田の文化芸術を感じることで、遡上の道標となる教育を推進します。

【生涯にわたる成長のために】

学力育成を支えるための施策の推進

アユが立派に育つのは、地域全体での様々な取り組みによって水や緑が美しく保たれているからといえます。子どもの頃に思い描いた夢を実現するには、いつまでも学び成長し続けるための確かな学力が必要です。それを支える環境の整備と効果的な学習方法の活用を推進します。

【仔魚・稚魚期の成長を切れ目なく支える】

教育と子育て支援の一体化

アユの産卵から海に出ていくまでの間の仔魚・稚魚期には、自然環境の変化や様々な困難から身を守る必要があります。子ども達も、乳幼児期から学童期を経て成長していく過程では、切れ目ない子育て支援や教育による支援が必要です。親への支援も含め、子ども達の成長を支える仕組みづくりを進めます。